

飛驒山脈ジオパーク構想 ジオサイト(第25章)

奥飛驒温泉郷(その1)

奥飛驒温泉郷が、「全国温泉地満足度ランキング(旅行サイトじゃらん2020年版)で、満足度96%を獲得し2年連続1位に輝いた」と12月12日付の新聞にありました。飛驒山脈の雄大な自然と湯が評価されたのではという関係者の声も合わせて掲載してあります。

この奥飛驒温泉郷は、全国の温泉地と比べても泉温の高さ、湧出量はともに上位クラスです。さらにこの泉温の高さと湧出量の多さを活かして、これも全国トップクラスの露天風呂があることで知られています。

飛驒山脈の南部には、乗鞍岳・アカンダナ火山そして焼岳という三つの活火山が並んでいます。奥飛驒温泉郷の温泉群は、これら活火山の地下で地下水が熱せられたり様々な成分が溶かし込まれ湧き出しているものと思われまます。まさに飛驒山脈(大地)からの恵みなのです。

奥飛驒温泉郷には、古くから湯治場として知られた平湯温泉、蒲田温泉をはじめとして数多くの温泉地があり、人々に利用されてきました。

昭和55年以降、これら多くの温泉地を平湯温泉・新平湯温泉・福地温泉・新穂高温泉・栃尾温泉という五つの温泉群にグループ分けし、全体を奥飛驒温泉郷と総称しています。この名称は、高山市との合併後、旧上宝村の南東側町名にもなっています。

今から千三百年ほど昔、天平5年に書かれた出雲風土記の中に玉造温泉について、「一度浸れば容姿端麗、二度浸ればたちまち万病を除く」と温泉の効能を絶賛しています。

このように、かつては温泉といえば、心身の疲れを癒し病を治すなくてはならない存在でした。その役割は、「癒し」の比重が大きくなってきてはいますが、今も私達の暮らしになくてはならない存在です。

(飛驒地学研究会 下畑五夫)



問合 飛驒山脈ジオパーク推進協議会

☎0578-84-0068